

4. 世界のイカ・タコ

川上武彦（東海区水産研究所）

1. 世界の海洋におけるイカ類の分布

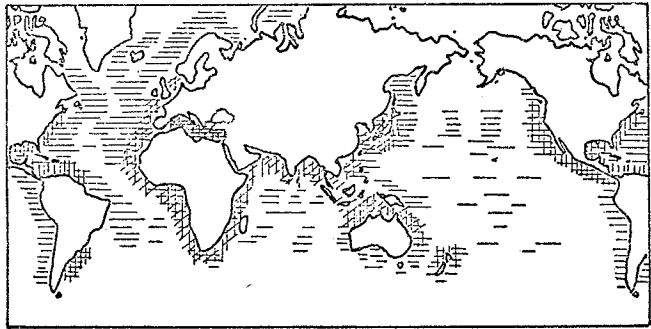
世界の海洋に生息するイカ類のうち、重要な種類はコウイカ類、ヤリイカ類およびスルメイカ類で、その分布状態は第1図に示すとおりである。

コウイカ類は地域性が強く、温・熱帯地方に多く、潮干帯から大陸棚上に分布し、底生生活を営む。この類は東南アジ

ア、南アフリカに多く、世界で約70種知られ、日本には20種がいる。

ヤリイカ類は温・熱帯域（おそらく南北とも緯度40°付近まで）に生息しており、沿岸域で繁殖してかなり大きく回遊するが、地域性が強い。日本には10数種がいる。

インド洋～太平洋にはアオリイカなどこのイカの仲間が多く、また、アメリカ太平洋岸、大西洋にもこの仲間がいる。



第1図 世界の海洋におけるイカ類の分布

//// コウイカ類
 ||| ヤリイカ類
 === スルメイカ類

スルメイカ類は世界で約20種知られているが、3グループ（亜種）に分けられる。一つは日本のスルメイカの仲間で、太平洋西部、大西洋東部、地中海などに分布している。第2のグループは大西洋、地中海に広く分布している小型のイレックス・スルメイカである。第3のグループは太平洋、インド洋、大西洋、地中海に広く分布しているアカイカの仲間、第1、第2グループに比べて沖合性のイカである。

これらイカ類の生息水域を示す一例として、カリブ海におけるイカ類の分布¹⁾を第2図に示す。ヤリイカが一番沿岸よりにおり、その沖側にイレックス・スルメイカがあり、一番沖にアカイカの仲間がいる。

2. イカ・タコ類の漁獲高

1970年のイカ・タコ類の漁獲高を、FAOの統計²⁾によつて、コウイカ類、ヤリイカ・スルメイカ類およびタコ類に分け、海域別にまとめて第1表に示す。

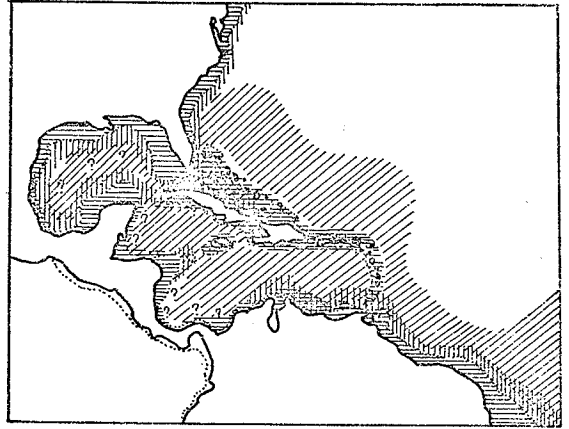
1970年のイカ・タコ類総漁獲量は約88万トンで、種類別にはヤリイカ・スルメイカ類が一番多く73%を占め、ついでタコ類(18%)で、コウイカ類が一番少ない(10%)。地域別には太平洋西部が最も多く、全世界の75%を占め、そのうちの81%は日本の漁獲である。ついで、大西洋東部が多く(17%)、そのうちの47%は日本による。種類別にみると、コウイカ類は太平洋西部が最も多く(全世界の47%)、そのうちの38%は日本による。

ついで、大西洋東部が多く(31%)、ここでも日本がその半分(52%)をとっている。ヤリイカ・スルメイカ類は太平洋西部で大部分(世界の89%)を揚げ、しかも、その83%は日本の漁獲である。タコ類は大西洋東部が最も多く(世界の58%)、その57%は日本による。太平洋西部では世界の31%を占めるが、大部分(98%)が日本の漁獲である。日本以外の国で、イカ・タコ類の水揚げのある国は、太平洋西部ではベトナム、中国、マレーシア、韓国、ホンコンなどで、大西洋(地中海を含む)ではスペイン、ポルトガル、フランス、イギリス、モロッコ、イタリー、アメリカ、ソ連、アルゼンチン、ベネゼエラ、ブラジル、などである。

3. イカ・タコ類の漁法

世界のイカ・タコ類の漁法および漁具は Voss³⁾ によると次の7種に分けられる。

1) ヤスまたはカギによる漁獲：最も古い漁法で、現在は東洋および地中海で行なわれている。イカは夜、光で集めてヤスでつのが最もうまくいく。タコに対するこの方法は主に熱帯域で行なわれている。



第2図 カリブ海におけるイカ類の分布

- ≡≡≡ ヤリイカ類
- ||||| イレックス・イレセプロス
- ////// オンマストレフェス・プテロプス

注) Voss, 1971: The cephalopod resources of the Caribbean sea and adjacent regions. FAO Fish. Rep. (71.2)の図より作成。

第1表 1970年イカ・タコ類漁獲高

海域	コウイカ類	スヤメイカ類	タコ類	計
	全世界 千トン (別%)	全世界 千トン (別%)	全世界 千トン (別%)	全世界 千トン (別%)
太平洋	40(465)15(37.5)	576(90.6)470(81.6)	47(30.5)46(97.9)	663(75.7)531(80.1)
西部	40(465)15(37.5)	566(89.0)470(83.0)	47(30.5)46(97.9)	653(74.6)531(81.3)
東部	—	10(1.6)—	—	10(1.1)—
大西洋	43(50.0)14(32.6)	60(9.4)18(30.0)	107(69.5)51(47.7)	210(24.0)83(39.5)
東部	27(31.4)14(51.9)	31(4.9)5(16.1)	90(58.4)51(56.7)	148(16.9)70(47.3)
西部	—	19(30)13(69.4)	2(1.3)—	21(2.4)13(61.9)
地中海	16(18.6)—	10(1.6)—	15(9.7)—	41(4.7)—
インド洋	3(0.5)3(100)	0	0	3(0.3)3(100.0)
総計	86(100.0)29(33.7) 9.8%	636(100.0)488(76.7) 72.6%	154(1000)97(63.0) 17.6%	876(1000)614(70.1) 100.0%

注) FAQ, 1970: Yearbook of Fishery Statistics vol. 30 より作成。

2) 流しづりあるいは手づりによる漁獲：多くの地方で用いられている。地中海ではコウイカ類をとるため、雌のコウイカをつけたひき縄をゆっくりひいて雄がよった時、網ですくってとる。東洋ではイカ針、または擬餌針をつけた、ひき縄でイカ・タコ類をとる。メキシコではカニを餌としてつけた30本のひき縄を小舟でひいて、タコが上ってきた時に網ですくってとる。

3) かごあるいはつぼによる漁獲：地中海では細枝と針金であんだかごに餌あるいは小枝を入れて、海底に設置し、集まったコウイカ類を網でとり、また、粘土のつぼを何個か縄でつないで、海底に沈めてタコをとっている。この方法はカリブ海、メキシコ湾、ホンコン、中国および日本でも行なわれ、インド・マラヤでは巻貝の貝殻を用いている。

4) 落網による漁獲：各方面で行なわれている。

5) 地びき網および巾着網による漁獲：地びき網は地中海、アフリカ、日本などで、巾着網あるいはランバラ・ネットは地中海、イベリヤ半島、モンレー湾、日本などでイカ漁獲に用いられる。

6) 底びき網による漁獲：オッター・トロールは全漁法のうちで最も能率の高いものの一つで、魚類やエビ類の漁業の際、イカ・タコ類が混獲される。

7) イカ針による漁獲：手づりと機械づりとあり、日本の機械づりは大変進んでいる。

4. 食用としてのイカ・タコ類

イカ・タコ類は海洋における最大の食料資源の一つと考えられている。これらは食物ピラミッドの頂点近くの部分を占めながら、広大な海洋に生息し、数量的に極めて多い。また、これらはきれいな環境にすみ、どの種類も食用になり、これによる食中毒は、2.3の例もあるが、甲殻類、貝類に比べて少ない。食用にする場合、すてる部分が少なく、さらに、成長が早く、短期間にくり返し漁獲ができ、高度に利用できると Voss 教授¹⁾は述べている。

最近、日本以外でも、イカ・タコ類の新漁場開拓の関心が高まりつつあり、また、ヨーロッパ、オーストラリア、アメリカなどで、これらの食用としての需要がのびているという。これは東洋人や地中海沿岸の人々が、あちこちに移住して、市場を拡げたことも一因である。従来、北欧の人々やアメリカ人などに、イカ・タコ類が食用とされなかったのは、これらは乱暴な動物として、小説などに書かれ、一般におそれられていたことも一因で、また、料理方法を知らなかったことにもよるのであろう。

5. 頭足類の潜在資源量

Voss (1973)³⁾は現在の頭足類の全世界の漁獲量は150~200万トンと考えており、これより大陸棚および斜面部における頭足類の潜在資源量は8~12百万トンと考えている。

海洋性イカ類の約90%は未開拓であり、その潜在資源量について、Gulland (1970)⁴⁾は2~100百万トンと考え、Clarke (Voss への個人的手紙)は50百万トンと考えている(南半球に50万頭のマッコウクジラがおり、これらが食べるイカは1年に40~100百

万トンと考えた)。3) Voss (1973) 3) は、マッコウクジラは200年前から捕獲されていて、現在は初期資源量の $\frac{1}{5}$ 以下となっており、したがって、その資源量は250万頭のオーダーであったと考えた。また、北半球に南半球の $\frac{1}{3} \sim \frac{1}{2}$ のマッコウクジラがいたと考え、そうすると南北合せて375万頭となり、これが食べるイカは375百万トンと考えた。クジラがイカの現存量の半分を食べるとすると海洋性イカの資源量は750百万トンとなる。Boerema (1970) はペルー沖にいるマッコウクジラは5万頭で、年146万トン(1頭1年約30トン)と考えているので、この数字を使って前記と同様に計算すると、イカの現存資源量は、204,500,000トンとなる。これら二つの推定値より、Voss は海洋性イカの漁獲可能量は年1~3億トンで、5億トンになることもありうると考えた。

以上のとおり、海洋におけるイカの潜在資源量は極めて大きいが、人間の食料として考えた場合、どれだけ利用できるであろうか。これら資源を有効に利用するため、先ず、それらのイカをうまく食用として利用するための研究が必要で、次に、それらのイカを経済的に漁獲することが重要で、漁法の研究が必要であろう。その上で、初めて、これら莫大なイカ資源を有効に利用することができるであろう。

引用文献

- 1) Voss, G. L., 1971: The cephalopod resources of the Caribbean Sea and adjacent regions. FAO Fish. Rep., (71, 2).
- 2) FAO, 1970: Yearbook of Fisheries Statistics Vol. 30.
- 3) Voss, G. L., 1973: Cephalopod resources of the world. FAO Fish. Circ., (149).
- 4) Gulland, J. A., 1970: The fish resources of the ocean. FAO Fish. Tech. Rap., (97).